

氏名 (ふりがな)	川島 光太郎 (かわしま こうたろう)
専門分野	内分泌薬学、骨・軟骨代謝、骨粗鬆症治療薬、薬剤師・登録販売者育成
肩書	薬剤師、甲種危険物取扱者、産業カウンセラー
所属 (役職)	一般社団法人日本薬業研修センター (理事長)
経歴	東京大学薬学部卒業、東京大学大学院薬学研究科博士課程修了 大学院時代から、骨・軟骨代謝に関する研究に従事 1980年に、骨吸収(分解)に関わるホルモンである副甲状腺ホルモンが骨形成を促進することを世界で初めて発見し、 Nature にて発表。外国において製品化が図られ、現在、副甲状腺ホルモンは、新しい骨粗鬆症治療薬として世界中で使用されている。 また、1992年には、宇宙での微小重力の骨形成への影響を調べるため、スペースシャトルでの実験プロジェクトにも参加。大学における講義は、内分泌薬学、生化学、分子生物学等を担当。
実績 役職	元 東京大学 助手(薬学部)、 元 帝京大学 助教授、教授(薬学部)、 NPO 法人 夢のデザイン塾 (キャリア支援の NPO) 理事 日本チェーンドラッグストア協会 顧問
委員	1990年「医薬品等適正広告協議会 (神奈川県薬務課)」会長 1998年「公文書公開条例、個人情報保護審議会 (神奈川県津久井町)」委員 2001年「個人情報保護審議会 (神奈川県相模湖町)」委員
著作 (作品)	編集者として「内分泌薬学 (エルゼピアジャパン)」 共同翻訳者として「グッドマン・ギルマン 薬理書 第11版 (広川書店)」 共著者として「骨形成と骨吸収及びそれらの調節因子 (広川書店)」、 「動物培養細胞マニュアル(共立出版)」、 「INTEGRATED ESSENTIAL 薬理学 (南江堂)」、 「薬学薬理学(丸善)」、他多数
講演	「骨疾患と治療薬」、「運動の体に与える影響」、「宇宙時代の医薬品」等
特徴	長く、骨粗鬆症治療薬の開発研究に携わってきたため、骨代謝に関係するホルモンや薬物に強い関心がある。骨粗鬆症も生活習慣病の一つであるが、他の生活習慣病も骨粗鬆症と同様にホルモンが大きく関わっているところから、生活習慣病全般について、内分泌薬学の講義の中で扱ってきた。
講演の内容例	「生活習慣病の発症と予防ならびに治療」のような演題で、骨粗鬆症も含めた生活習慣病全体の対応について講義することが出来る。